

ご使用前に、必ずこの「取扱説明書兼添付文書」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、「取扱説明書兼添付文書」は必ず保管してください。

2021年03月作成

安全にお使いいただくために

注意文の表示内容

本取扱説明書兼添付文書では、表示内容に従わず、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。
お使いになる方や、他の人々への危害や財産への障害損害を未然に防止するため、表示内容に従ってご使用ください。

警告

- 特に注意していただきたいことを示します。
・適正に使用しても、注意を怠ると死亡又は重傷を負う可能性が想定されます。

禁忌・禁止

- 絶対に行ってはいけないことを示します。
・本品の性能を超える、又は不適正な使いかたにより、死亡又は重傷を負う危険性があります。

注意

- 使用にあたり、一般的な注意を示します。
・誤って使うと、傷害を負う可能性、又は物の傷害^{*}のみの発生が予想されます。
※物の傷害とは、家屋、家財、及び家畜、ペットにかかわる拡大損害を示します。

警告

- ・子供だけで使わせないでください。[本品の先端部をかみ切って飲み込んだり、けがをする可能性があります。]

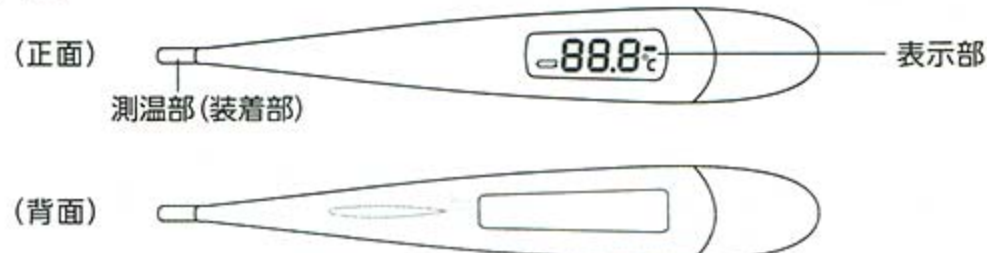
禁忌・禁止

- ・引火性のある環境では使用しないでください。[引火又は爆発の誘因となる可能性があります。]

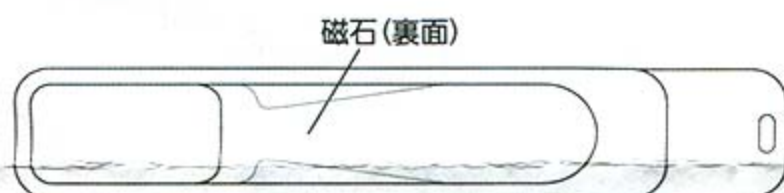
形状・構造及び原理等

構造図

● 本体



● 収納ケース (単品販売もある)



● 表示部 ※説明のため、全点灯で表示

- ・初期動作確認機能 (告知機能)
電源が入った時に所定の表示をし、検温可能を告知する。
- ・エラー表示機能 (告知機能)
検温不良時、ブザーが鳴動し、表示部に「E」を表示する。
- ・使用温度範囲外表示機能 (告知機能)
使用周囲温度が、使用条件の範囲外の場合、表示部に「Hi」又は「Lo」のマークを表示する。
- ・体温値点滅表示機能 (告知機能)
体温計の測温部が大きくずれた場合等で正常な予測検温が行われなかった際は、その旨を体温値の点滅で告知する。
- ・動作不能告知表示機能 (告知機能)
体温計が動作異常を検知した場合は、「EE」のマークを表示する。



原理

本品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、検温開始から約4分30秒までは予測値、それ以降は実測値の最高値をデジタルで表示します。検温中は、平均約30秒(おおよそ25秒～40秒)で予測が成立したことを知らせるブザーが鳴り、検温をそのまま続けると、検温開始から約10分後に実測検温終了のブザーが鳴ります。

使用目的又は効果

使用目的

測温部を部位に接触させて、腋窩の体温を測定し、最高温度を保持しデジタル表示すること。

使用方法

体温の測りかた

検温を始める前に次の点に気をつけてください。
※微熱等、特に厳密な体温管理が必要な場合には、実測検温(10分以上)を行うことをお奨めします。

予測検温のしかた

① 収納ケースから体温計を取り出す。

表示は次のようになります(この表示は正常に作動していることを表します)。



② 体温計を正しい位置にあてる。

ワキ下中央のくぼんだところに測温部をあて、先端部を押し上げるように保持してワキをしっかりと閉じてください。
ワキ下への体温計の挿入角度は、上半身に対し30°くらいの角度が最適です。



注意

- ・ワキを閉じた後はひじが脇腹にしっかりあたるようにし、手のひらを上に向け、もう一方の手で軽くひじを押えてください。このときひじをおなかの方に引き付けずにしてください。
- ・電源を入れるときや測定開始前に、体温計の先端(測温部)に触らないでください。
- ・ワキ下に汗をかいている場合は、タオル等で汗を拭き取ってください。
※汗をかいたまま測ると、ワキ下が冷えているため正確に測定ができません。
- ・検温中は、体を動かし、体温計を動かしたりしないでください。体温計の測温部が正しい位置からずれると、正確な検温ができないことがあります。
- ・横向きだと先端(測温部)が出てしまうのでダメ!
- ・下向きだと先端(測温部)がワキの下の中心にあたらぬのでダメ!



③ 予測成立ブザーが鳴ったら、体温計を取り出し、表示部の数値を読み取る。

1回目のブザーが鳴る前に、体温計がわずかにずれた場合は、自動的に予測時間を延長して、予測値を確認する機能があります。平均約30秒(おおよそ25秒～40秒)で予測が成立します。



注意

- ・取り出してから表示値が変化したときは、変化後の(固定した)値を読み取ってください。予測演算が終了するまで若干の時間がかかるためです。
- ・数値を読み取る際は、体温計の先端(測温部)に触れないでください。表示が変化することがあります。
- ・表示が点滅するときは、最初から検温をやり直してください。

④ 検温が終わったら、体温計を必ず収納ケースに収めて電源が切れたことを確認して保管する。



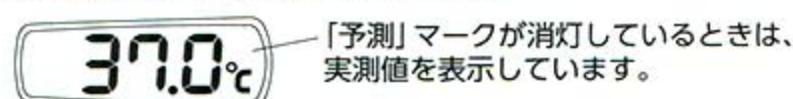
表示された数値は収納ケースに収めるまでそのまま保持されます。収納ケースに収めると、内蔵の磁石により、自動的に電源が切れます。

注意

- ・続けて検温するときは「0」表示以外は収納ケースに戻す必要はありません。前の数値が残ったままでも検温できます。

実測検温のしかた

実測検温の場合は、1回目のブザーが鳴っても、体温計を取り出さずに、そのまま検温を続けてください。検温開始から約4分30秒後に実測表示に切り替わり、検温開始から約10分経過後、2回目のブザーが鳴りますので、体温計を取り出し、表示部の数値を読み取ってください。



使用上の注意

使用方法等に関連する使用上の注意

注意

- 体温は、時間帯、気温、睡眠、感情等の要因で常に変動しています。また個人差、年齢等でも違いが見られます。自分の正しい平熱をあらかじめ検温しておいてください。
- 健康な時の一日の体温変動を理解しておくことは大切です。時間を決めて体のリズムをチェックしてください。
- 飲食後、運動後、入浴後、外出から帰宅後はすぐに検温せず、30分ほど待ってから測ってください。
- 測定時に、体温計の先端(測温部)を正しい位置にあてていないと、低く表示されることがあります。再度検温してください。
- 体が冷え切っていると、低く表示されることがあります。再度検温してください。
- 体温計が冷えているときは、室温になじませてから、再度検温してください。[低く表示されることがあります。]
- ワキ下に強く密着させて測定してください。
- くり返し検温するときは、少し時間をおくなど、体温計の先端(測温部)を冷ましてから検温してください。[そのまま測ると、測定値が高くなる場合があります。]

重要な基本的注意

注意

- 人の体温測定以外に使用しないでください。けがの可能性がります。誤作動や故障の原因となります。
- ワキ下以外(口中等)で使用しないでください。誤飲やけがの可能性がります。正確な検温ができません。
- 測定結果の自己診断、治療は行わないでください。
- 取扱説明書兼添付文書を確認の上、使用してください。
- 使用前に、外観を確認し、破損等の異常が認められた場合は使用しないでください。[検温値の異常や、けがの可能性がります。]
- 破損したものは使用しないでください。[検温値の異常や、けがの可能性がります。]
- 強くかまない、踏まない、落とさない、強いショックを与えない、曲げない、引っ張らないでください。[破損や故障の原因となります。]
- 強い静電気や電磁波、磁石等に近づけたり、近くで携帯電話を使用しないでください。[誤作動や故障の原因となります。]
- 使用条件下であっても、急激な温度変化を生じさせる使用はしないでください。[装置内部での結露発生により、損傷や経時劣化が生じ、本品が有する機能や性能が得られない可能性があります。]
- 本品は、振動、塵埃、噴霧、腐食性ガス等の発生する場所で使用しないでください。[本品が有する機能や性能が得られず、また、故障の原因となります。]
- 分解、修理、改造は行わないでください。[破損や故障の原因となります。]
- 本品の表示部を強く押えたり、ボールペンやツメ等、硬いもの、先の尖ったものでつついたりしないでください。[表示部の破損や故障の原因となります。]

保管方法

暖房器具のそば、車の中、日光や紫外線等の強い光があたる場所、ほこりの多い場所、湿気の多いところに保管したり、放置しないようにしてください。

[保管上の注意]

注意

- 日光や紫外線等の強い光があたる場所に保管したり、長時間放置しないでください。変色、劣化や故障の原因となります。
- 収納ケースに磁気カード、フロッピーディスク等を近づけないでください。内蔵されている磁石の影響で磁気記録された内容が損なわれる原因となります。
- 体温計は必ず、収納ケースに収めて保管してください。収納ケースに収めて保管しないと、電源が切れずに電池の寿命が短くなります。

お願い

本製品を廃棄する際は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)に従って適切に処理してください。

保守・点検に係る事項

[保守点検上の注意]

注意

- しばらく使用しなかったときは、使用前に必ず作動(電源が入ること、「電池電圧低下」マークが点灯または点滅していないことなど)を確認してから使用してください。
- シンナー等の有機溶剤、クレンジング、ポビドンヨードでは拭かないでください。有機溶剤を使用したり、使用可能な消毒液以外を使用した場合、本製品の破損、変色や故障の原因となります。また、ポビドンヨードで拭くと色素が付着することがあります。
- ガス消毒器等による本製品の滅菌、消毒はしないでください。故障の原因となります。
- ドライヤー等の熱風を使用して乾燥させないでください。本製品が破損や故障する可能性があります。
- 超音波洗浄はしないでください。故障の原因となります。
- 本体と収納ケースを洗う際は、水で洗うこと。収納ケースに収める際は、乾いた布等で水気を拭き取ってください。
- 消毒する際は、消毒用アルコール綿で清拭して自然乾燥させてください。
- 使用可能な消毒液(成分名)の例は以下のとおりです。
クロルヘキシジングルコン酸塩/ベンザルコニウム塩化物/次亜塩素酸ナトリウム/グルタラール
- 必要時間以上、消毒液に付けしないでください。必要な時間、濃度については、消毒液の添付文書を参照してください。
- 熱湯消毒(50℃以上)しないでください。

製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等

製造販売業者: テルモ株式会社

電話番号: 0120-008-178 テルモ・コールセンター

外国製造業者: 泰尔茂医療産品(杭州)有限公司

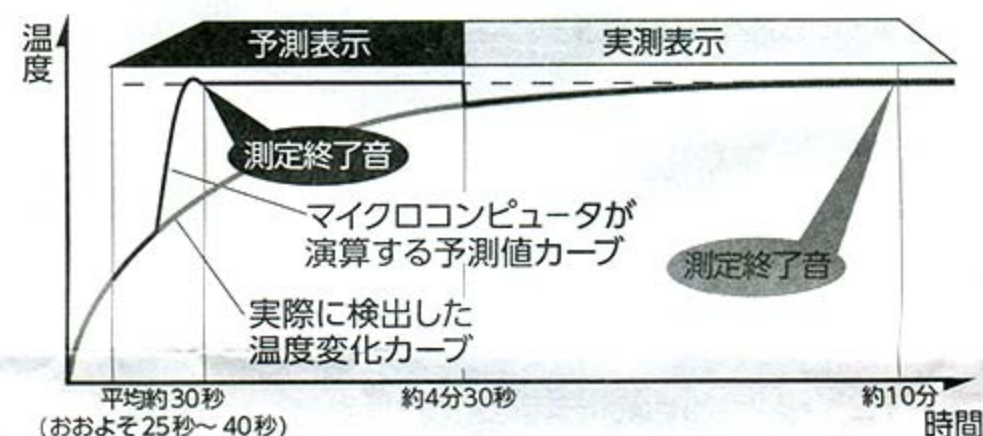
Terumo Medical Products (Hangzhou) Co., Ltd.

国 名: 中華人民共和国

● 平衡温について

平衡温とは?

ワキ下で体温を測る場合、測定開始後10分以上経過すると、“もうこれ以上体温計の表示が上がらない”という温度に達します。これを「平衡温」と呼び、一般的にはこれを「体温」としています。



平衡温予測方式とは?

テルモの予測式電子体温計は「平衡温予測方式」の採用により、10分以上の検温を必要とする平衡温を平均約30秒(およそ25秒～40秒)という短時間で予測演算します。これは、多数の体温測定結果から体温の上昇カーブを解析し、そのデータを基に、マイクロコンピュータが、検温時の温度上昇を細かく分析、演算して平衡温を予測し表示する方式です。

● 次のものがそろっていますか?

万一、不足しているものがあるときは、すぐにお買い上げの販売店又はテルモ・コールセンター(☎0120-008-178)までご連絡ください。

この体温計の販売名はテルモ電子体温計C207です。

● 本体(電池含む) ● 収納ケース

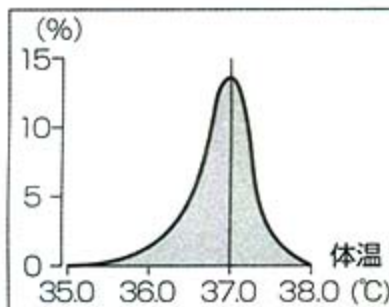
● 取扱説明書兼添付文書/EMC技術資料/品質保証書

37℃は発熱とは限りません

熱を測って37℃あると、「熱が出た!」と思いがち。ところが、37℃は平熱の範囲内なのです。

正しく測れば、子供からお年寄りまで、健康なときの体温の平均値は36.89℃±0.34℃(腋窩:ワキ下検温)。

だから37.0℃の平熱の人は珍しくありません。平熱は人によって異なるものです。



体温計は清潔にして使いましょう

人のワキの下には「皮膚常在菌」という細菌群が住み着いています。この細菌は病気や高齢などで体が弱った人に対し、病気を引き起こすことがあります。また感染症が流行しているときの体温計は特に要注意です。

さらに詳しい情報は

テルモ体温研究所のホームページをご覧ください。

テルモ体温研究所

検索

<http://www.terumo-taion.jp/>

テルモ体温研究所 体温から健康に

テルモ体温研究所は体温をキーワードに新しい健康生活を提案していきます。

● ご相談・お問い合わせ先

この商品に関するご相談やお問い合わせは、販売名をご確認の上、お買い上げの販売店又は「テルモ・コールセンター」にご連絡ください。

テルモホームページアドレス <http://www.terumo.co.jp/>

この体温計の販売名はテルモ電子体温計C207です。



テルモ・コールセンター

☎0120-008-178

(9:00~17:00 土・日・祝日を除く)

仕様

仕様は改善等のため予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

販売名 型式 測温方式 検温部位 測温範囲 検温時間 最大許容誤差 (温度指示特性) 表示方式 電源電圧	テルモ電子体温計C207 C207 予測式(予測検温、実測検温兼用) 温度検出:サーミスタ 腋下 32.0~42.0℃ 予測検温時間:平均約30秒(おおよそ25秒~40秒)、測定開始後、約4分30秒後実測表示に切替 実測検温時間:検温開始から約10分(ブザーで告知) ±0.1℃(恒温水槽を用いて実測測定したときの表示温度の標準温度計に対する誤差) 液晶表示素子による3桁デジタル表示(最小表示単位:0.1℃) DC 3.0V アルカリマンガン電池(LR41)2個(交換不可)	消費電力 分類 耐用期間 使用条件 保管・ 輸送条件 外観寸法 質量 製造年月日	約0.3mW 内部電源機器 BF形装着部 IPX 7(液体の浸入に対する保護) 5年、あるいは連続使用で、約10,000回(予測検温)(自己認証による) 周囲温度: 10~40℃ 相対湿度: 30~85%RH(ただし、結露なきこと) 周囲気圧: 700~1060hPa 周囲温度: -10~50℃ 相対湿度: 30~95%RH(ただし、結露なきこと) 周囲気圧: 700~1060hPa 長さ129mm×幅17.6mm×厚さ12.6mm 約13.0g(電池含む) 本体銘板のロットNO.に記載 例: 20-D01A [製造年(YY)-月(A-L)日(DD)]
---	--	--	---

本品は電池交換ができないタイプです。

本製品はEMC規格IEC 60601-1-2:2014に適合しております。CISPRグループ分類:グループ1 クラス分類:クラスB

トラブル時の対処方法

故障が疑われる場合には、まず下記の項目について確認をお願いします。それでも問題があるときは、「保証規定」をお読みのうえアフターサービスをお申し付けください。

現象	原因	対処方法
検温するたびに、温度の数値が違う。	体温は、時間帯、気温、睡眠、感情等の要因で常に変動しています。また個人差、年齢等でも違いが見られます。	正しい平熱をあらかじめ検温しておいてください。
	体温計の先端(測温部)が温まっている。	くり返し検温するときは、少し時間をおくなど体温計の先端(測温部)を冷ましてから検温してください。
	飲食後、運動後、入浴後、外出から帰宅後はすぐに検温せず、30分ほど待ってから測ってください。	
(右記の場合は、まれに低めに表示される)	体温計の測温部が正しい位置にあてられていない。	「使用方法」の項に従い、正しい位置で再度検温してください。
	体が冷え切っていたためにワキ下の温度が低い。	ワキを1~2分開けて、温度を安定させてから再度検温してください。
	体温計が冷えている。	手等で体温計全体を温めてから再度検温してください。
	体温計の先端が温まっている。	先端(測温部)を冷ましてから再度検温してください。
(右記の場合は、まれに高めに表示される)	すでにワキ下の温度が温まりすぎている。	10分間の実測検温を行ってください。
他の体温計と比較して、体温が高めに表示される。	他の体温計が水銀体温計等の実測式であり、検温時間が不十分であった。	「平衡温」を予測しているためであり、故障ではありませんので、そのままご使用ください。
いったん高めの表示が出て、下がってからブザーが鳴る。	予測演算の途中のため。(正常な動作です)	表示が固定されてから、数値を読み取ってください。
ワキ下から取り出したとき表示が変わる。	取り出しても予測演算が終了するまで若干の時間がかかるため。(正常な動作です)	表示が固定されてから、数値を読み取ってください。
	測温部に指等が触れて、検温が再スタートした。	測温部に指等が触れないようにしてください。
ブザーが聞こえない。	周囲の音がうるさい。	静かな環境で再度検温してください。又は2分以上検温してください。
ブザーが止まらない。	静電気による誤動作。	いったん収納ケースに戻してから、再度検温してください。
初期表示(体温計を収納ケースから取り出したときの表示)が正常でない。		
EEが表示される。		
予測検温の表示値が点滅する。	1回目のブザーが鳴る前に、体温計の位置がずれた。	「使用方法」の項に従い、体温計をずらさないようにして正しい位置で再度検温してください。
Eが表示される。	1回目のブザーが鳴る前に、体温計が外れた。	
10分経過時のブザーが鳴らない。	1回目のブザーが鳴った後、体温計の位置がずれた。	
0が表示される。	検温値が42℃を超えている。	人の体温測定以外に使用しないでください。再度検温する際はいったん収納ケースに戻してからにしてください。
「予測」マークが消えている。	検温開始から4分30秒以上経過し、実測値を表示している。	予測検温する場合は、再度検温してください。
再検温の際、ブザーが鳴らず、前回の表示が残っている。	体温計の測温部の温度が高いため測定が開始されない。	少し時間をおくなど体温計の先端(測温部)を冷ましてから再度検温してください。
Loを表示する。	使用可能な周囲温度の下限を超えている。	表示が消える(「88.8」が表示される)まで、室温になじませてから、検温してください。
Hiを表示する。	使用可能な周囲温度の上限を超えている。	

記載されている社名、各種名称は、テルモ株式会社および各社の商標または登録商標です。 ©テルモ株式会社 2021年03月 ET_C207P_J_50_001_03

品質保証書

このたびは、本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。品質には万全を期しておりますが、通常のご使用において万一故障が発生したときは、保証規定により無償対応いたします。品質保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

販売名:テルモ電子体温計C207

お名前:

ご住所:

TEL:

製造販売業者:テルモ株式会社 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目44番1号

お買い上げ販売店名:

お買い上げ年月日:

年 月 日

検査合格証



保証規定

- 保証期間は、お買い上げ後1年間です。
- ご使用中、故障が発生した場合はテルモ・コールセンターへご連絡ください。
- 保証期間中に、通常の使用において万一故障が発生したときは、品質保証書を現品にそえて送付していただければ、無償対応いたします。
- ただし、以下の場合は保証期間中でも有償になります。
 - ご使用中で取扱いの過誤(落とし、強いショックを与える)により発生した故障。
 - 正しい状態(使用後は収納ケースに入れるなど)でご使用にならなかった場合。
- 製品の改造、不当な修理により発生した故障。
- 火災、地震、水害等天災地変などの不可抗力による故障及び損傷。
- 故障の原因が本製品以外に起因する場合。
- 上記以外で弊社の責に帰することのできない原因により発生した故障。
- 品質保証書のご提示がない場合。
- 品質保証書にお買い上げ日、販売店名の記載がない場合(ただし、お買い上げのレシートでも可)、また、字句を書き換えられた場合。
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.

テルモ電子体温計C207

本製品はIEC 60601-1-2:2014の在宅医療環境に適合している装置です。

お使いいただく際は、本製品に付属の取扱説明書兼添付文書をよく読んでお使いください。

■ EMC (電磁両立性) とは

EMC (電磁両立性) とは、次の二つの事項を満たす能力のことです。

- ・周辺の他の電子機器に、許容できない障害を与えるようなノイズを出さない。(エミッション)
 - ・周辺の他の電子機器から出されるノイズ等、使用される場所の電磁環境に耐え、機器の機能を正常に発揮できる。(イミュニティ)
- IEC 60601-1-2に代表されるEMC規格は、医用電気機器を安全に使用するため、機器から発生するノイズが他の機器に影響を及ぼしたり、他の機器(携帯電話等)が発する電磁波から受ける影響を、一定のレベル以下に抑えるよう規程した規格です。
- IEC 60601-1-2:2014 (5.2.2.1項)において、機器が安全に機能するためのEMC環境に関する詳細な情報を使用者に提供することが求められているため、EMCにかかわる技術的な説明を以下に記載します。(詳細は、IEC 60601-1-2:2014をご参照ください。)

■ EMC (電磁両立性) にかかわる技術的な説明

医用電気機器は、EMCに関して特別な注意を必要とし、次に記載するEMCの情報に従って使用する必要があります。

- 注意**
- ・本機器は電磁両立性 (EMC) に関して、特別な注意が必要であり、本書に記載されたEMC情報に基づいて使用しなければならない。
 - ・携帯形RF通信機器 (アンテナケーブル及び外部アンテナなどの周辺機器を含む) を、体温計のあらゆる部分から30cmよりも近づけないこと。
 - ・本機器は、他の機器に密着させたり、重ねた状態で使用しないこと。

ガイダンス及び製造業者による宣言 - 電磁エミッション

ガイダンス及び製造業者による宣言 - 電磁エミッション	
テルモ電子体温計C207は、次に指定した電磁環境内での使用を意図している。テルモ電子体温計C207の顧客又は使用者は、このような環境内でそれが使用されることを確認することが望ましい。	
エミッション試験	適合性
RFエミッションCISPR 11	グループ1
RFエミッションCISPR 11	クラスB
高調波エミッションIEC 61000-3-2	非適用
電圧変動/フリッカエミッションIEC 61000-3-3	非適用

ガイダンス及び製造業者による宣言 - 電磁イミュニティ

ガイダンス及び製造業者による宣言 - 電磁イミュニティ		
テルモ電子体温計C207は、次に指定した電磁環境内での使用を意図している。テルモ電子体温計C207の顧客又は使用者は、このような環境内でそれが使用されることを確認することが望ましい。		
現象	基本EMC規格	イミュニティ試験レベル
静電気放電	IEC 61000-4-2	接触: ±8kV 気中: ±2kV, ±4kV, ±8kV及び15kV
放射RF電磁界	IEC 61000-4-3	10V/m 80MHz~2.7GHz 80%振幅変調 (1kHz)
電源周波数磁界	IEC 61000-4-8	30A/m 50Hz又は60Hz

ガイダンス及び製造業者による宣言 - 電磁イミュニティ

ガイダンス及び製造業者による宣言 - 電磁イミュニティ					
テルモ電子体温計C207は、次に指定した電磁環境内での使用を意図している。テルモ電子体温計C207の顧客又は使用者は、このような環境内でそれが使用されることを確認することが望ましい。					
現象	基本EMC規格	試験周波数[MHz]	イミュニティ試験レベル[V/m]	試験周波数[MHz]	イミュニティ試験レベル[V/m]
RF無線通信機器 からの近接電磁界	IEC 61000-4-3	385	27	1500	28
				1720	
				1845	
				1970	
				2000	
		450	28	2450	
				3500	
		710	9	5240	9
		745		5500	
		780		5785	
		810			
		870	28		
		930			

シンボル

	BF形装着部		リサイクル (ダンボール)		基準適合証印		取扱説明書 を参照		正しい上向き 位置を示す
	取扱注意		湿度制限		気圧制限		水ぬれ防止		直射日光禁止
	温度制限		上積み 段数制限		リサイクル (紙)		バガスマーク		